

サテライト事業を契機とした共同研究事例

○神谷千春* 松本俊哉*

1. はじめに

和歌山大学は、「和歌山大学・岸和田市地域連携推進協定」の下、2006年、大阪府岸和田市に岸和田サテライトを開設した。現在ここに地域連携コーディネーター（以下、コーディネーター）2名と事務担当スタッフ1名を配置し、同市を中心とした南大阪地域との連携促進を目的に、次の4部門を柱とする事業に取り組んでいる：

- (1) 高等教育部門
- (2) 地域研究・生涯学習部門
- (3) 地域連携・産学官連携部門
- (4) 高大連携部門

本発表では、岸和田市市制施行90周年記念事業の一環として2012年11月末に実施される地域活性化イベント¹での共同研究事例²について、岸和田サテライト事業の上記(1)(2)を間接的な契機とした成立経緯を報告する。

2. 共同研究までの経緯：燈（あかり）に始まる

2012年10月、上記イベントの一区画における照明演出について、和歌山大学に協力を依頼したいとの相談が、事業担当者（岸和田市役所市街地整備課）より岸和田サテライトに持ち込まれた。このとき、担当者とコーディネーター双方に面識のある人物が仲立ちとなった。

担当者との面談初回においては、当該事業の趣旨と概要、過去に実施された類似事業の様子、和歌山大学への協力要請についてのイメージ等を、コーディネーターが時間をかけて聞き取った。その上で、コーディネーターからは、本依頼内容に比較的近いと思われる分野に〈思い当たる〉数名の本学教員について簡単に紹介するにとどめ、再度、希望する内容を可能な範囲で具体化しての連絡を依頼した。数日後、先方での調整を経た依頼案が寄せられた。直ちにコーディネーターからA教員（システム工学部デザイン情報学科）に対し、本件についての情報を提供した。幸い、A教員から連絡を受けたB教員（同学部環境システム学科）も内容に関心を示し

たため、翌週にはコーディネーターが大学本部に向き、上記教員及び本事案に参画予定の学生に対し、事業の概要説明と意見交換等をおこなった。また、教員側からは、コーディネーターの質問に答える形で必要経費の概算提示があり、加えて、今回の事案について、学内産学連携・研究支援センターの各種制度（共同研究、受託研究、学術指導）の利用提案があった。

これらをふまえて、1週間後、上記教員及び産学連携・研究支援センター専任教員、相手先が一堂に会する打合せを設定した。席上において、上記の各種制度についての説明及び協議の結果、本件の実施内容や形態、予算規模等を勘案し、共同研究制度の適用を確認した。

3. マッチングの背景知識：〈思い当たる〉道筋

遡って2010年度、A教員は岸和田サテライトで「学部開放授業」³を担当、翌2011年度はコーディネーターの依頼により、「わだいなみ（なみ）切（きり）サロン」⁴において、まちあかりのデザイン及び照明景観のシミュレーション等の話題を提供した。今回これらサテライト事業が基となり、コーディネーターは当該教員の研究内容をシーズとして〈思い当たった〉。報告の中で、この流れを事例に、事業間の連携による連携創出の可能性を示唆したい。

(注)

- i 「歴史的まちなみを活用したきしわだ紬まちづくりプロジェクト」
- ii 「岸和田城のお堀における燈デザイン計画とシミュレーション評価に関する共同研究」
- iii 前出(1) 高等教育部門の事業。地域の社会人向けに教養科目を開講。このときの科目名は「デザイン情報学入門」。
- iv 前出(2) 地域研究・生涯学習部門の事業。地域向けの無料定期公開講座。2011年7月20日開催の第34回「ITを活用したまちづくりと地域ブランドのデザイン」を担当。

* 和歌山大学 岸和田サテライト 地域連携コーディネーター